

周産期血液学へのいざないー小児科医よりメッセージ

九州大学 環境発達医学研究センター 落合 正行 (学会幹事・評議員)

周産期・新生児医療では、成熟過程にある全身の組織と臓器・胎内から胎外への急激な環境の変化・多様な遺伝学的背景、を包括的に診療します。

そのなかで血液は、止血血栓機構や免疫機能を含めた生体防御・酸素や栄養素の運搬と排泄などを担う重要な組成となります。

乳児死亡の内訳では「胎児及び新生児の出血性障害等 (ICD-10 : P50-61)」が第5位であることより、この医療分野における血液学の重要性が理解できます。

日本産婦人科・新生児血液学会は、「出血と血栓ー死亡ゼロを目指してー」をテーマとして、小児科医、産婦人科医、ならびに輸血医療等の血液学のスペシャリストが周産期血液学に挑む、学術的かつ臨床に即応した魅力的な学会です。

新生児医療を担う小児科医の皆様、周産期血液学の扉を開けてみませんか！

明日の子どもたちと家族のために、私たちと共に血液学を学びましょう。